

はじめに

第四次まちづくり計画は、第三次の計画に引き続き「健康で笑顔あふれるまち富熊」の実現を目標に、2025年度から2029年度までの5カ年間で計画期間として策定しました。

前期のまちづくり計画の期間中における地域環境の変化を把握し、検討していくとともに、コロナ禍の影響を受けた実施状況についても点検しました。特に宅地化、高齢化の波は急激に当地域にも押し寄せ、昔からの農村の風景を変貌させつつあります。

また、発生確率が80%といわれる南海トラフ巨大地震への対応も喫緊の課題です。身の回りや地域の安全など防災に関する知識を取得するとともに、避難所運営訓練や防災訓練など着実に進めていかなければなりません。

課題は大きく、その解決には多くの努力が必要となっています。先人達は、その困難を希望と知恵で乗り越えてきました。改めて、一層のご理解とご協力をお願いします。



目次

はじめに	1
第1章 環境の変化と影響	3
1. 人口構成の変化	
2. 自治会加入率の変化	
3. 自然災害の変化	
4. コミュニティセンターの老朽化	
第2章 評価と課題	5
第3章 まちづくり計画	9
1. 目指す富熊の将来像	
2. まちづくりの5本柱	
第1柱：歴史と環境をまもるまちづくり	
第2柱：健康で生きがいのあるまちづくり	
第3柱：安全安心の暮らしを支えるまちづくり	
第4柱：ふれあい・助け合いのまちづくり	
第5柱：地域と子どもが かがやくまちづくり	
第4章 資料集	15
1. 富熊校区の概要	
2. 年表	
3. 富熊コミュニティ組織図	
4. 計画策定委員一覧表	

第1章 環境の変化と影響

1. 人口構成の変化

人口は、地域の第一の指標となるものであります。平成17年から平成26年までの10年間と平成27年からの10年間を比べてみても、平成28年をピークに減少傾向にあります。丸亀市全体の動向もほぼ同様であり、全体として、減少傾向にあります。

また総人口に占める高齢者の割合は、全国的にも上昇し続けると予想されています。当地域も同様ではありますが、住宅団地などは若い方が多いため、近隣のコミュニティよりは小さくなっております。

また、世帯数においては、同様に比較すると、平成28年をピークに逆に増加する傾向にあります。このことは、小規模住宅団地の増加などによる影響が大きく見られるとともに、核家族化の進捗に伴うものと考えられます。

このような人口減少の影響は学校や医療などの公共サービスの維持が困難になるとともに、空き家や耕作放棄地の増加が課題となっています。

2. 自治会加入率の変化

自治会は、時代に応じて地域の中心的役割を果たしてきており、1970年代には90%以上の加入率を誇って、様々な活動をしてきました。冠婚葬祭や地域のまつりなどを中心に活動してきた自治会も、その時代の変化に対応出来ず、その存在価値に疑問を呈するようになり、加入率は減少の傾向が続いています。

当地区においても10年前には70%以上あった加入率も58%に急落しています。隣接する栗熊地区、岡田地区の75%以上という数値と比べても、当地区の数字はきわだっています。全国的に自治会加入率が低下している状況のなかでも、地方の当地区などはその影響が比較的小さい状況にありました。しかし最近、新しい住宅団地が増えるとともに、高齢者の単身世帯などが介護施設などへ移るといった、社会環境の変化の影響が大きく、急激に加入率は下がってきました。

このような自治会加入率の減少は、住民のつながりの低下を招き防犯や防災活動に影響を与えるとともに、地域内のイベントなどの活動が困難になっています。

3. 自然災害の変化

南海トラフと呼ばれる四国沖の沿岸においては、古くから東海、東南海、南海地震と三つの地震が繰り返し起こっております。最近では1946年の昭和南海地震南海トラフ地震が発生しています。この地震から既に78年を経過しており、2024年5月には豊後水道で、8月には日向灘を震源地としたM7.1の地震が発生し、政府から南海トラフ地震臨時情報が発令されたところであります。このように南海トラフ地震の発生する可能性が年々高くなっており、その発生確率も30年以内に80%ということが言われています。

また地球温暖化の影響ともいわれる豪雨災害も、毎年各地域に大きな影響を与えています。当地域は大きな山や河川がないため、過去に大災害は発生していませんが、土砂災害などの小規模な地域災害は多方面で発生しています。

このような災害の影響を少なくするためには、防災に対する能力の向上をはかり住民どうしのつながりを高めることが、いっそう重要となってくると考えられます。

4. コミュニティセンターの老朽化

富熊コミュニティセンターは、昭和59年に当時の綾歌町により農村構造改善事業として建設されました。当地区の住民にとって、センターは災害時の避難所はもちろん様々な地域の集まり、生涯学習など活動の拠点となっております。しかし建設以来41年が経過し、建物自体の老朽化が著しく、外観はもちろん設備も含めて維持管理に支障を来たすことも多くなっています。

また当地域には、分館として平成6年に建設されたゆうとぴあ綾歌が富士見坂地区にあり、二つの活動拠点の有効利用と管理に努めています。

このような地域のコミュニティセンターの老朽化は、地域住民の交流の場の減少を招き、生涯学習の機会の喪失、緊急時の拠点としてのサービスの低下など様々な影響を与えています。

第2章 評価と課題

三次計画では、「健康で笑顔あふれるまち富熊」を将来像に掲げ変化する地域環境、社会環境に柔軟に対応して取組み、「富熊に住み続けたい」と思えるまちづくりを目指しました。

その将来像を具体化するために、5つの柱(テーマ)で、まちづくり活動に取り組みました。

第1 歴史と環境をまもるまちづくり

地域内の文化遺産や美しい景観を広く紹介するとともに、地域の美化と環境保全活動を推進しました。



文化遺産の紹介



里山の草刈り



地域一斉清掃



花いっぱい運動

第2 健康で生きがいのあるまちづくり

当地区の高齢化率も31%を超え、高齢者層の健康維持は重要な課題です。このことから地域の方々とのふれあい、身体を動かすことが健康長寿に重要と思い、活動を推進しました。



敬老会



いきいきサロン



おしゃべりと映画鑑賞



ペタンク大会

第3 安全安心の暮らしを支えるまちづくり

比較的に災害の少ない地域ですが、近年では予想もしない災害が発生する可能性もあり、これらに迅速に対応するためにも日頃からの訓練等が必要です。また、高齢者のみの世帯や空き家も増加しています。これらの環境変化に対応した活動をしました。



防犯パトロール



防災計画の策定



防犯講習会



地域のおじさんおばさん運動



信号無視撲滅キャンペーン



防災訓練

第4 ふれあい・助け合いのまちづくり

地域の方々の交流が、犯罪や災害の防止の重要な要素と思います。色々な行事を通じて「輪を広げる」活動を展開しました。



コミュニティまつり



生涯学習クラブ



友愛訪問



竜山大学



夏まつり



人権研修会

第5 地域と子どもがかがやくまちづくり

子どもの育成には、家庭と地域が一体となって健全な発育に協力することが大切と考え、行事を通じて地域環境づくりに努めました。



さつまいも栽培



夏休み宿題応援



親子料理教室



子育て支援



あいさつ運動



卒業祝い

第3章 まちづくり計画

1. 目指す富熊の将来像

わたし達の住む富熊は、豊かな自然、歴史文化資源の継承が比較的うまく機能している地区であると考えています。そして、時代の流れに沿い、変化する地域環境、社会環境に柔軟に対応していく必要があると考えます。特に少子高齢化を踏まえ、住民一人一人により重点を置き、「健康」や「生きがい」などにも一層取り組み、「富熊に住み続けたい」と思えるまちづくりを目指します。

このようなことから、この計画では三次計画を引継ぎ「健康で笑顔あふれるまち富熊」を将来像として位置づけることとします。

2. まちづくりの5本柱

その将来像を具体化するために、引き続き次の5本の柱を中心にして、まちづくりに取り組んでまいります。

第1柱：歴史と環境をまもるまちづくり

第2柱：健康で生きがいのあるまちづくり

第3柱：安全安心の暮らしを支えるまちづくり

第4柱：ふれあい・助け合いのまちづくり

第5柱：地域と子どもが かがやくまちづくり



3. 計画の性格

本計画は、毎年度の部会、理事会などにおいて必要に応じて改定できる柔軟な性格を有します。

4. 計画の期間

本計画の有効期間は、令和7年度から令和11年度までの5ヵ年間とします。





地球温暖化により、私たちの生活環境は大きく変化してきています。四季の変化を感じにくくなっているほか、想定規模以上の災害も頻繁に発生する状況となっています。

緑を大切にし、地域の美化と環境保全活動を推進し、豊かな郷土づくりを目指します。



計画事業（実施団体）

事業名	事業内容	実施団体	実施回数 (時期)	実施予定
花いっぱい運動	プランターに花の植付け (学校・コミュニティなど)	防犯環境部 環境美化推進員	5月・12月	
地域一斉清掃	地区全体のポイ捨てごみの収集	防犯環境部 地区住民	5月・12月	
自然の中で遊ぶ	里山散策、いちご狩り、家畜とふれあい	富熊小学校 富熊保育所	2回/年	
路上のゴミ点検	道路沿いなどのポイ捨てゴミの点検	環境美化推進員	随時	
土器川河川敷クリーン作戦	土器川河川敷の一斉清掃に参加	環境美化推進員 老社会	1回/年	
ゴミステーションの掃除	各地域自治会でのゴミ収集所の清掃	各自治会	随時	
地域内の美しい景観の紹介	コミュニティだよりで随時紹介	総務部	4回/年	検討
里山の草刈り	里山の草刈りをして、里山の活用を図る	地区及び役員有志	11月～3月 2～4回	
クリーンセンター見学	資源ごみ活用視察、親子同時の学習の機会	小学校＋希望者	学校授業に合わせる	
食用廃油回収の定着	コミュニティセンターでの回収	コミュニティ及びクリーン課	随時	



歴史と環境をまもるまちづくり